

## INDEX

- ① 巻頭言
- ② いこま乳児保育園50周年
- ④ リーダー研修
- ⑤ 児童施設より
- ⑧ 高齢者施設より
- ⑩ 法人研究発表会
- ⑫ 叙勲ごあいさつ

- ⑬ 表彰受賞者一覧
- ⑭ 人形供養
- ⑮ 役員会

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

### 巻頭言

## 「貴縁」

理事長 辻村 泰範

今年も恒例の講書始めの儀が皇居松の間で執り行われた。学術分野の各界第一人者が天皇陛下の前で最新の業績や話題についてご進講される様子がテレビや新聞で報道された。

「この人知っている人じゃないの」最初にご進講された御牧克己先生の名前を指差して家内が声を上げた。

インド・チベット仏教学の権威である京都大学名誉教授御牧先生だ。

人生には多くの出会いがある。それは人であったり出来事であったりもする。人それぞれにその一期一会が物語を紡ぎ出している。

「縁は大事にせんといかんよ。」と、事あるごとに説いていただいたのが故松本実道猥下だった。「縁を貴ぶことが貴い縁を生み出すんだよ。」

と、色紙にも好んで「貴縁」と揮毫された。

実は御牧先生には有難い因縁がある。修士課程を修了し、中央競馬福祉財団の研修生として

ヨーロッパに派遣された際、パリ大学に留学されていた御牧さんを訪ね、二人でノートルダムを見学したことがあった。よくやることだが、脚が長く見える様にと芝生に這いつくばって撮ってもらった。

長髪姿の青年の写真は効果てき面。実物に会ってちよつと腑に落ちなかつたそうだが、縁を結ぶ神様もいらつしやるのだ。我々には先生の榮譽が我が事の様に嬉しいニュースであった。



「縁貴ブ可シ」(えん たつとぶべし)

この色紙は、法人の理事長であった故松本実道大和上(真言律宗管長・西大寺長老・宝山寺貫主)の遺墨や名言を集めた「遺芳集」(平成十二年宝山寺発行)から転載。師は平成十一年九月四日九十六歳で遷化された。



## いこま乳児保育園

# 創立五十周年式典を終えて

いこま乳児保育園 園長 喜多 由希子

今年一番の寒波の到来を心配する中、十二月十八日に記念式典を行いました。雪は降らなかつたものの、吹く風が肌を刺すような1日でした。作品展との同時開催でしたので、前日も遅くまで展示や式典の準備に時間を要していました。式典とは別に、保護者の方々も集まり、「お祝いの会」をする予定にしていたのですが、二週間前から流行性下痢嘔吐症が広がり、残念でしたが集まることを中止にしました。その代わりに、無観客での「お祝いの会」を保育士が撮り、YouTubeで配信しました。

さて、式典の方は、ご招待したお客様をお迎えすべく、保育園職員に加えて、法人各施設長の方々にもお手伝い頂きました。何十年かに一度、いえ、もしかするとコロナ禍の式典を行ったことは一生に一度ではないでしょうか。椅子、消毒済みのスリッパなど、保育園の備品だけでは足らず、近隣の施設にお借りしました。いつもは広く感じる保育園のホールに多くの椅子が並んでいるのを見ると、緊張感がさらに増し、身が引き締まる思いがしました。時間が近づき、お客様が次々と到着される中、名誉園長の新田先生がお見えになられました。笑顔でゆつくりと車から降りてこられた姿を見て、一気に嬉しさで体が震

# 50th



えました。そして、宮本和子先生、家治圭子先生と歴代の園長先生方がお揃いになりました。

式典が始まり、理事長の挨拶、そして多くの方からのご祝辞を頂戴し、式典は順調に進行していきました。この式典のもう一つの出来事として、退職された有志の先生方によって木版画を寄贈して頂いた事、そしてその木版画家でもあり、卒園生でもある田村洋子（たむらひろこ）さんがお越しくださっていた事でした。この出会いがこの五十周年式典へのご参加に繋がり、式典の雰囲気がとても温かいものになったことを大変嬉しく、また感謝しております。寄贈品の絵の傍に歴代の園長が並び、お礼の意味を込め、職員で園歌を歌いました。すると、覚えて下さっていた様で、新田先生が歌に合わせ手拍子をされました。さらに心が熱くなったひと時でした。和やかな雰囲気の中、無事に式典を終えることが出来ました。

五十周年式典を行ったことにより、園の歴史を伝えることが出来、ひとつの目標に向かって職員一丸となって成し遂げられたと感慨深く思っております。これまでの数多くの方々との出会いに感謝し、また新たなスタートを切ったのだと胸に刻み、乳児保育専門の保育園であることを誇りに思い、邁進していく所存です。どうぞこれからのいこま乳児保育園をよろしくお願い致します。寄贈していただいた版画は保育園のホールの一角に飾っておりますので、保育園にお越しの際には是非ご覧ください。

# 「チームのリーダーに求められる役割について学び、 活気と意欲に溢れる職場づくりを目指す」



法人研修委員 梅寿荘デイセンター 中井 耕大

「チームのリーダーに求められる役割について学び、活気と意欲に溢れる職場づくりを目指す」をテーマに、法人内各施設から、現在主任やリーダーとして活躍している、或いはリーダーを目指す職員18名を対象として、3回にわたって実施されました。新型コロナウイルス感染拡大防止、時代に沿った新しい研修実施体制構築のためオンラインでの開催となりました。

**第1回目**（令和3年9月15日）、はじめに、辻村泰範理事長より「仏教と社会福祉」について講話をいただきました。日本の仏教について、またその歴史についてのお話をうかがいました。仏教で説かれる精神や、僧侶の方々が先駆的に実践してきたその歴史は、現代の社会福祉のルーツとなっており、私たちの社会福祉実践と深い関係があることを学び、受け継いでいかなければと身の引き締まる思いでした。

**第1回目の後半**では、あくなみ苑・田中将史施設長から講義と演習により「組織論」を学びました。組織についての理解や組織活動の意義、リーダーシップの意義、問題解決について講義をいただき、演習では、自施設での課題事例について、その課題の整理と解決に向けてのプロセスをグループワークにより理解を深めることが出来ました。

**第2回目**（令和3年10月28日）、引き続きあくなみ苑・田中将史施設長より「チームビルディング」「人事考課」をテーマに講義をしていただきました。

前半の「チームビルディング」の講義では、チームのパフォーマンス向上を目的としたチームビルディングについての理解を深め、月で遭難した際に重要だと思ふアイテムのランク付けをするというグループワークを通して、チームでの合意形成について学びました。

後半の「人事考課」では、効果的な人事考課制度の設計・運用ができることを目標に、リーダー職員の考課に期待される役割と活用について講義とグループワークにより学びました。母集団の中で結果中心に対人比較をする相対考課ではなく、育成機能を重視し一人ひとりの強みや弱みを見つめ、能力開発に結びつける絶対考課をすることが重要であり、その仕組みや判断基準の理解、フィードバック実施の重要性などを学びました。

**第3回目**（令和3年11月25日）、いこまこども園・米田恵美子園長より「苦情解決の基礎」をテーマに、苦情に繋がってしまう要因や苦情を受ける際の応対方法、再発防止の重要性を学びました。演習では、顧客役と対応役をロールプレイすることで、苦情を申し出る側の心情の理解、苦情を受ける際の留意点や初期対応の重要性を実感することが出来ました。

この度のオンライン研修では、これまでの法人内オンライン研修では実施されていないグループワークを取り入れました。対面の研修であれば、グループ討議の様子を講師の先生方が直接見れて指導や調整が出来ますが、今回は各グループに研修委員がチューターとして参加しグループ討議の進行を担いました。そのため、これまで以上に講師の先生方との事前の打ち合わせが必要であり、今後のオンライン研修開催に向けての課題となりました。

しかし、2種類のWebツールを使用して開催され、接続や音声などのトラブルもありましたが、運営側も受講側も少しづつ慣れてきたように思います。対面方式、オンライン方式それぞれに特性やメリット・デメリットがある中で、感染症の感染状況や研修内容によって開催方式の選択がよりスムーズになったように思います。

# 児童施設より

5p いこまこども園

8p 平城児童センター

いこま乳児保育園

6p いこま乳児院

仔鹿園

9p

あすかの保育園

極楽坊あすかこども園

7p

奈良県発達障害者支援センターでいあー

児童発達支援いっば

10p

愛染寮

こども支援センターあすなろ

## 遊びから 指先の発達を促す 手作りおもちゃ いこまこども園

保育教諭 友澤 有沙

乳児クラスでは、年齢ごとに発達に応じた手作りおもちゃを作り遊んでいます。

**0歳児**はつまんだり引っ張ったり出したりして繰り返して遊ぶことが大好きです。そこで、何度も繰り返して楽しめるペットボトルの引っ張り玩具を作りました。手で触れたり、転がすと中に入っている鈴の優しい音が出たりして楽しめます。



0歳児 ひよこ組

**1歳低月齢児**は、指先を使う遊びが大好きなので、仕掛け玩具のような箱のおもちゃを作りました。その中でもほっとん落としが一番人気で色や形に合わせて「ここ？」と聞いたり、考えたりしながら何度も楽しんでいました。



1歳低月齢児 りす組

**1歳児高月齢児**は、見立て遊びが楽しめるようになってきたので、自分専用の動物の人形を作りました。「あむあむ…ごはんよ。おいしい〜」と果物を食べさせたり、話しかけたりするなどお母さんのようにお世話をしていました。



1歳高月齢児 ばんび組

**2歳児**は粘土遊びが好きで自在に形が変わることを楽しんでいました。そんな姿から着想を得て紙粘土でパン作りをしました。トングを用いてパン屋さんごっこをすることで思いと手指の動きを連動させ「いらっしやいませ」「やきたてですよ」と並べたりカゴに入れたりして友だちとのやりとりも楽しむことができました。

2歳児 きりん組



それぞれの月齢の子どもたちの発達に即した楽しめるおもちゃを使って、繰り返し遊ぶことで手指の動きや器用さ、思考力の発達などが促されます。11月末の作品展で保護者の方にも見ていただき、持ち帰り、家庭でも楽しく遊んでくれました。

世界中に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症。自然豊かな、生駒の山がおうちの乳児院も、例外ではありませんでした。職員や職員家族のコロナ疑いだけでなく、面会者や実習生の疑陽性などもあり、昨年はコロナ対策のBCPを二度発動しました。COVID-19、敵の正体はぼんやりと見えてきたとはいえ、まだまだ何が正解かわからない状況の中、手探りで対策を考えた一年でした。

遠足などのお楽しみや、職員と子どもが食事を共にし、大声で笑いあう機会の減少。職員の行動チェックやユニフォームの頻回な更衣。日頃からの環境整備や個人防護具の着脱などの技術や知識の習得。感染症疑いのある児の隔離室対応を含め、新しい当たり前が次々生まれるなか、苦痛を伴うものも多く、取り越し苦労なのではないかと悩むこともありました。

しかし、20年程前にはなりません、仕事についたばかりの頃『段取り八分の仕事二分』と仕事の事前準備の大切さを教えてもらった言葉を思い出しました。事前準備の大切さ、それはマニュアルの整備や物品の確保などのハード面だけでなく、その時に備えた心積りをしておくこと。つま

り重要なことは、どれだけ同じイメージを職員間で共有できているかだと思います。そのためには、看護師だけが教えるという形ではなく、全職種で『一緒に考える』ことが大切であると痛感しました。これは昨年、受講させていただいた、法人リーダー研修でも学んだことです。

新型コロナウイルス感染症の到来はとても怖いものですが、とにかく自助が強調される時代の中で、公助や共助の大切さを改めて感じるができる一年でもありました。



## 一年を振り返って

仔鹿園相談支援センターは児童発達支援センターこども支援センター仔鹿園に併設されている相談支援センターです。自然の中で四季の移ろいを感じながら毎日、バスで元気に通ってくる子ども達の姿に自然と笑顔と元気が湧き出る毎日です。

新型コロナウイルスの流行が始まって2年が経ち、生活様式も大きく変化しています。マスクの常時着用や、アルコール消毒、アクリル板越しの面談など。特に、これまでは福祉の現場に

## 仔鹿園相談支援センター

相談支援専門員 田中 一嘉

”馴染みにくいのでは”と感じていたWEB会議も今では当たり前のように行われています。センターでも感染対策を十分に配慮しながら日々の業務を行う年となりました。

日々、変化する生活様式の中で、大きく変わることもあります。本人が(家族が)、その方らしく居られるように一緒に寄り添う事はどんな時も変わらない我々の使命だと思っています。変わる事、変わらない事共に大切にしながら邁進していきたいです。

## 次年度に向けて

でいあーが現在の田原本にあるリハビリテーションセンターに移転してから4年が経過しようとしています。事業の中心である直接相談はセンター内に加えて奈良市のはぐみセンター等で実施していますが、2年後に始まる一次相談窓口を市町へ移行するために今年度から5市町でモデル事業が始まっています。またこれからの市町での窓口相談を今後スムーズにしていくために下半期は県内の市町への説明訪問を行ってきました。その時に課題として出てきたことは県内には発達障害を診断してもらえる小児科が少ないことでした。早期発見早期療育は国の方針ですが、それが実施できるような医療機関が少ないために、現在県内の発達障害診断ができる病院を整理していく作業が始まっています。今後でいあーの役割は一次相談から二次相談へ移行して、困難事例の相談や事業所支援が中心になっていきます。

## 発達障害者支援センターでいあー

センター長 森山 貴司

他の事業として実施している啓発や研修は、今年度に入ってからコロナ感染対策をしてオンラインでの研修と併せて会場で開催ができるようになってきています。これからもコロナと共存しながら感染対策を考慮しつつ最適な環境で研修会等を実施していきたいと考えています。



発達障害啓発週間展示より

## いっぽの六つの幸せ

令和3年度がスタートしてもうすぐ1年。当たり前のように、当たり前でない「幸せ」って何かなあと振り返ってみました。①母子、父子の親子通園が再開出来たこと。普段の様子が見てもらえました。②プール遊びが思いっきり楽しめました。仔鹿園さん、プール貸して頂き感謝です!③遠足に行けた事。生駒山上遊園地に東大寺の大仏様。いつもより寒くて震えながらお弁当食べました。④クリスマス会。サンタさんからプレゼントもらったね!「ケーキもって食べる!」と言ったOOくん。⑤コロナ感染が1人も出なかった幸い。⑥子供も大人も大きな怪我もなく無事に過ごせました。

出来ない事以上に、出来た事がたくさんあったことに感謝をして、令和4年もスタートしていきます。

## 児童発達支援いっぽ

児童発達支援管理責任者 長野 智子



プレゼントを届けなくなくっちゃ!

## 子どもたちに遊びの時間と居場所

## 平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

令和3年度の活動に子どもたちの意見を取入れるために6月「希望する活動のアンケート」を行いました。希望が多かったのは「鬼ごっこ」「動物園」「曾爾キャンプ」「水族館」「野外自炊」「公園」「作品製作」などでした。新型コロナの影響もありましたが、内容を工夫しながら、野外での活動を中心に実施しました。「作品製作」では講師にセンターに来ていただいて指導を受けました。ただ子どもたちが楽しみにしていた曾爾キャンプ

やソーメン流しは中止となり残念でした。

10月に「運動遊び」や「秋の運動会」を行いました。それまでは運動系の活動は控えめにしていましたが、かけっこ、玉入れやリレーなど色々な種目を行いました。子どもたちの笑顔、協力して真剣に取り組む姿に今後とも遊びや様々な体験と居場所時間の提供をしていきたいと考えました。

## やきいもパーティー

## いこま乳児保育園

主任 小田 朝美

2歳児が、芋ほり遠足で掘ってきたお芋を、後日焼き芋をして食べました。蒸したお芋を、自分でアルミホイルに包んで、散歩で集めた落ち葉の中に入れました。お昼寝から起きてきて園庭に来た子どもたち、落ち葉に火がついているのを見て、「わあー すごい」「おいもできた?」と興奮気味の声があちらこちらから聞こえてきました。ベンチに座ってお芋をもらおうと大きい口を開けてお

芋をほおぼり、「おいしいな～」と笑顔がこぼれました。家に帰ってからも、お家の人に「葉っぱ燃えててん」「おいもおいしかったでー」など、その時の様子を嬉しそうに話しをしていた子どもが多くいたようです。これからも子どもたちのきらきらした笑顔をいっぱい見る事ができ、また子どもたちの心に残るような経験がたくさんできる保育を考えていきたいと思います。



「おいしくなあれ～」



「やきいもおいしいね」



## お米作りと花植え

## あすかの保育園

園長 小林 美香

昨年よりあすか野小学校地域協働本部が立ち上がり、小学校や幼稚園と共に、地域の方々と連携しながら、子どもたちの保育(教育)が深められるように、定期的に会議を持っています。地域の方たちも本当に協力的に色々考えて下さり、改めて地域の方々に支えられていることを実感しています。

さて今年はお米作りと花植えをお願いすることになり、環境整備の方々に相談しながら進めることができました。お米作りではすずめに実を食べられてしまい、思うように収穫できず残念な結果になってしまいましたが、来年度は「すずめ対策も考えましょう」と心強いお言葉もいただきました。そして花壇やプランターにはパンジーやチューリップの球根を植えました。春にはたくさんの花が咲くことを楽しみにしています。

この取り組みを通して情報交換をすることで、

あすかの保育園の様子も今まで以上に知ってもらえるようになりました。コロナが収まり、更に地域の方々と一緒に活動ができるようにと願っています。



チューリップを植えたよ

## 子どもの主体性を育む保育とは?

## 極楽坊あすかこども園

園長 辻村 泰聡

こども園や保育園の運営の基礎となるのは、それぞれの要領や指針であり、乳幼児の保育や教育はこれに基づいて実施しています。この中で、「子どもが主体的に活動できるようにすること」が繰り返し述べられています。例えば、絵を描くにしても、保育教諭がテーマを決めて、こう描きなさいと指示して子どもに描かせるのではなく、子どもたち自身が関心を持ったテーマを、自分自身で色々考えながら試行錯誤して絵を描き上げていくことが大切だというわけです。当園では、この視点から改めて自分たちの保育を見つめ直し、望ましい保育のあり方を考えています。

11月に実施した作品展では、各クラスのテーマ選びから、子どもたちで相談して決め、共同製作もどんなものにして、色を塗って仕上げるのか、子どもたちで考えを練り上げながら作っていました。作品展当日、ホールには、2階にまで届く

ほどの大きな恐竜ができあがり、子どもたちも満足そうな顔を浮かべていました。運動会や春をよぶつどいといった大きな行事のあり方も含め、日常の保育一つ一つをしっかりと見つめ直しながら、理想の保育に少しでも近づいていけるように努力していきたいと思います。



## 備えよ、常に

題字はボーイスカウトのスローガンです。これは、まさに今のこの時代こそ強く心がけるべき重みのある言葉だとは思いませんか。災害と感染症、時代はこの二つに翻弄されています。私達がこれらに立ち向かうためには常日頃の準備を怠らないことが全てだと職員達とはもちろん、子ども達とも毎日の生活を通じて学んでいくこと、実践することの大切さを共有してきました。お陰様で今のところ大きな事故や病気もなく、最大限の準備と注意



何、この集団?～兄ちゃん姉ちゃん達のクリスマスのお出し物「錯覚ダンス」

## 愛染寮

寮長 未松 保喜

を払いながら海への里帰り、夏祭り、運動会などの行事や面会外泊も行うことができました。感謝です。そしてボーイスカウトの活動も滞りなく続け、「備えよ常に」の精神にも磨きをかけることができたかな。

うちは傍からは楽観的で、何でも行け行けのように見えるかもしれませんが、決してそんなことはありません。今後は今まで以上に厳しい状況でしょうが、「備えよ常に。」ですね。



大人も子どももない!死闘を繰り広げたドッジボール大会(11.6生駒小学校にて)

## 良き仲間と共に頑張った1年

生活支援センターあすなろは、こども支援センターあすなろあずさに併設されています。就学前から中学3年生までのお子さんとその保護者が対象で、一般相談や通所、福祉サービス利用に繋げるための計画相談をおもに行なっています。

この1年を振り返ってみると例年に比べて相談ケースが増え、また不登校や心の面でケアの必要な保護者など、家族を含む困難ケースが

## 生活支援センターあすなろ

相談支援専門員 谷口 圭永子

多くありました。また、生駒市内に新しい事業所が増え、それらの事業所を利用したい方も多く、利用に繋げるための対応にも追われました。そんな多忙な中でも職員同士で何気ない会話をして笑い合ったり、ケースに対して相談し合える仲間がいる職場だからこそ、頑張れる気がします。

これから増々忙しくなる時期を迎えますが、職員間で協力し、お互い励まし合いながら乗り越えていきたいと思っています。

# 高齢者施設より

11p

- 特別養護老人ホームあくなみ苑
- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

12p

- 特別養護老人ホーム延寿
- デイセンター寿楽

13p

- 特別養護老人ホーム梅寿荘
- 梅寿荘居宅介護支援センター
- 梅寿荘デイセンター・  
デイセンター憩の家

## コロナ禍でのニューノーマル

コロナ禍になり早2年が経過しました。コロナ禍が始まった時は戦々恐々としていましたが、ワクチン接種も終了し、コロナとの向き合い方も分かり新しい生活スタイルにも慣れてきました。ご利用者の家族面会も再開しており、ご家族とご利用者の外出の機会も徐々に増えてきています。以前のようにマスク無しでとは、まだいきませんが、少しずつ日常を取り戻しています。

あくなみ苑での生活も徐々に以前のように戻ってきています。例年通りの行事を行いながら、新しい行事にも取り組みました。ご利用者に少しでも楽しんでもらえるように、そして素敵な笑顔が見られるように担当職員達を中心となって考え取り組んでくれていました。

まだ終わりの見えないコロナ禍ですが、ニューノーマルになって新たな発見や気づきも多くありました。緊急事態宣言が発令されるなど困難な社会情勢になったこともありましたが、新しく身に付

## 特別養護老人ホームあくなみ苑

主任生活相談員 小森 康志

いた知恵や工夫もありました。どんなに困難な状況になっても、知恵や工夫で乗り越えていける事、皆で力を合わせれば立ち向かっていけることを学んだ一年でした。



## 一年を振り返って

生駒市の委託事業であるセンターの事業内容に関して、この時期になると年度初めに計画した事業の評価を行います。自分たちなりにそれぞれの職種が仕事内容を振り返り、課題を実行することの難しさを実感しています。ところがこの一年コロナ禍での難しさはあるものの、問題がなかった日常では考えも浮かばなかった工夫やアイデアを、職員それぞれが出し合い、なんとかして乗り越えていく楽しみを見つけることもできました。例えばその一つは、集まりの場が休みとなり、行先を失った高齢者の方々に向け、自宅でセルフケアするためのかわら版をお配りしたり、地域で開催する介護予防教室をあずさでは毎月開催する予定とし、開催が難しくなった場合は申し込み者に個別に連絡を入れ、結果個別

## 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子

に対話の機会が増えました。

様々な環境に対して、柔軟に対応する力をこの機会に養うことができたと思っています。



介護予防教室の様子

## 延寿3大イベント!

コロナ禍という状況を踏まえて、イベントを実施するためにどのような方法を取れば全てのご利用者が安全に安心して楽しんで頂けるのか職員は知恵を絞った一年でありました。一昨年はイベントを縮小し感染を防ぐことで頭がいっぱいでしたが、今年度は敷地内を整備することで感染対策をしながら外でのイベントを実施することを目標としました。

その結果、8月には花火大会、9月は敬老会、10～11月には秋祭りを開催し、心配していた天候も全ての日程で晴天に恵まれ、ゆったりとした楽しい時間を過ごすことができました。

花火大会では外の空気に触れ夜空に打ち上げられた花火の「音」「美しさ」に拍手と感動の声で盛り上がりました。

延寿のスローガンである「手間暇惜まず丁寧に」をモットーに、敬老会と秋祭りでは作成に2か月か

## 特別養護老人ホーム延寿

特養介護主任 大内 知子

けた職員の手作りによる風鈴を会場全体に飾ることができ、心のこもった温かい雰囲気の中開催することができました。

普段の業務で味わえない達成感を感じることができ、仕事へのモチベーションアップにも繋がっています。来年度も知恵を絞り工夫を凝らし取り組んでいきます。



## 日常生活を取り戻せ

改めて昨年を振り返ると、やっぱり新型コロナウイルスの話避ける事が出来ない1年間でした。デルタ株の猛威に緊急事態宣言が発令され、身近に感染者や濃厚接触者が出てはピリッとした空気が施設を包んでいました。しかし、こうした状況も、ワクチン接種が進むにつれて感染者数が減少していく中で改善し、徐々に日常生活を取り戻せる様にもなりました。これを待っていましたと言わんばかりに「ドライブに行きましょう。」「あそこのコスモスが綺麗なんです。行ってもいいですか?」等々、御利用者と職員が一緒になって施設から飛び出そうと生き生きとしていたのが、本当に嬉しかったのを覚えています。これもひとえに施設の感染予防対策にご理解を頂き、御利用者一人ひとりが新しい生活様式を受け入れて下さったおかげと感謝しています。

## デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

新しい変異株が見つかる中で、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、今年もデイセンター寿楽の職員は新型コロナウイルスに負けず、様々なイベントを虎視眈々と企画して行きたいと思えます。寅年だけに。



寅にご挨拶

## コツコツ前へ

マスクを付けるようになってもう2年が経ちました。顔の表情が分かりにくいいため付け始めた頃は「ご入居者に思いがちゃんと伝わるかな？」と少し心配をしていました。しかし、案ずるほどこのことで何か困ったことや不都合はなく以前と変わらないコミュニケーションが図れていると感じています。目は心の窓、感情はすぐ目に現れ口で話すのと同じくらい気持ちが相手に伝わります。「目は口ほどに物を言う」ですね!

しかし、やはりマスクを付けることで、口呼吸になってしまうなど多少の弊害もあるようです。できればマスクを外して笑顔いっぱいでお話ができる日が早く訪れることを願います。

さて、昨年を振り返ってみて一番に思い浮かぶのは、互いに興味と関心を持ちコミュニケーションを大切にしてきたことです。そうすることで話し

## 特別養護老人ホーム梅寿荘

特養次長 養護施設長 森本 公子

やすく聞き上手な風土となり、仕事での困りごとや対人関係などの悩みを一人で抱えこんでしまうことのないように皆で共有、確認し合ってきました。また施設内研修や外部研修を受講し、知識を深めてもらう人材育成にも取り組んできました。今後もずっとコツコツ継続して取り組む大切な課題であると考えています。



## 変わらず継続して

利用者さんが住み慣れた地域、自宅で自分らしく生活し続けるために、生活の中の困りごとを伺い、ケアプラン作成を行っています。

利用者さん自身がこんな風な生活が送れるようになれたらうれしいとイメージできるケアプランを目指しています。しかし、正直「もう80歳過ぎたし、90歳過ぎたしどうにもならないよ。」とおっしゃる利用者さんも少なくありません。人が来るのも好まないし、まして外へ出て知らない人の中に入ることに抵抗を示される方も多いです。

安全で安心な生活を送るために、サービスの必

## 梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

要性を説明し利用への不安を軽減しています。利用を重ねて行くうちに、「ヘルパーさんが来てくれて安心」「デイへ行くのが楽しみ」と生活そのものも変わっていく利用者さんを見るとケアマネとして達成感を味わえます。

どんな立派なプランをたてても、利用者さんの気持ちが動かなくては意味がないし、ケアマネ一人では支えられず、ご家族や関係事業所との連携、協力がなければできないことです。日々コミュニケーション、連携を重ね在宅支援に取り組む一年でした。

## 一年をふりかえって

## 梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家

センター長 伊藤 智宣

令和3年の梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家では、新型コロナウイルス感染症に感染する関係者はおられませんでしたが、一昨年と同様、感染症にピリピリした一年になりました。感染予防に徹するがあまり、制限をかけて実施したりすることもありました。しかし、行事などに制限をかけるがあまり、楽しさも半減し、ご利用者に楽しんでいただいているのか疑問に感じることもしばしばありました。日々の活動でも、制限をかけたりすることも

多くあり、ご利用者にご不便をかけることも多々ありました。特に認知症のご利用者は、日々の変化に敏感でもあり、いつもしていることができないことで、不安になられます。感染予防に徹しながら、行事や日々の活動を通してご利用者が笑顔で楽しく過ごしていただくことに苦慮した一年でもありました。

今年は、コロナ禍前のように、制限なく、楽しくサービスが提供できるような環境になってほしいです。

# ～希望を抱き一歩ずつ前へ～

令和4年1月23日に生駒市図書館市民ホールにて、第25回研究発表会を開催しました。今回は高齢者部門から、特に入所施設(特別養護老人ホーム)3施設の取り組みに焦点を当て、大会テーマ「介護の未来を描く～希望を抱き一歩ずつ前へ～」を掲げました。介護の将来像を描きながら、新しい情報は柔軟に取り入れ、先進的なツールの利用やエビデンスに基づいた支援について試行錯誤しながら取り組みを進めている実践について報告いたします。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター センター長 岩井 香奈子



講評では奈良県老人福祉施設協議会山本忠行副会長をお招きし、今回の研究発表を通して、私たちの仕事は、究極には、その人その人を支えていく仕事だと改めて感じたと言葉をいただきました。

## 発表3 特別養護老人ホーム延寿

### 「情報通信技術の活用

#### ～眠りSCANの分析から見たこと～

ベッドのマットレス下に設置するセンサーを通して、寝ている利用者の体動や心拍数、呼吸数を検知して睡眠状態の確認ができる見守り支援システムを活用して、夜間の利用者の転倒リスクの回避や夜勤者の精神的負担軽減に繋がっているという研究発表でした。また事例を通して、利用者の日中での活動量を増やしたり生活リズムを整えることが、睡眠時間の増加や睡眠効率のアップにも繋がりが、その事が更に活気のある生活に繋がっている事を眠りSCANのデータからも読み取れたという、上手くICTを活用している報告でした。

今回の開催にあたり、コロナウイルス感染防止の観点から、入場者は会場定員の半分以下とし、全席指定席、WEBでの参加申し込みと異例尽くしではありましたが、ご支援ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。また、ご来場いただいた皆様にも改めて御礼申し上げます。



## ポスターセッションプレビュー

- ◎組織活力アップ ◎施設改善 ◎業務改善
- ◎サービス改善 ◎地域連携活動

ポスターセッションプレビューにおいては、組織活力アップ、施設改善、業務改善、サービス改善、地域連携活動の5つの分野で17のポスターについて各担当者から内容をまとめたものを紹介いたしました。

★来年度は、児童部門からの研究発表を予定しています。

# 第25回 法人研究 発表会

令和4年1月23日

大会テーマ

## 「介護の未来を描く」



### 発表1 特別養護老人ホームあくなみ苑

#### 「タブレット端末導入による介護現場の変化 ～脱紙媒体!記録業務に追われるな!!～」

ICT（情報通信技術）の活用により業務の効率化を如何にして図れたのかをタブレット端末を導入したことで、膨大な記録業務の時間短縮ができたことについて、排泄記録を通して取り組みを進めた発表でした。また、タブレット端末を導入したことでの職員の意識変化や、利用者とのコミュニケーションツールとして活用できている事などが報告されました。



### 発表2 特別養護老人ホーム梅寿荘

#### 「認知症の行動・心理症状(BPSD)解消に向けた事例研究 ～タイプ別ケア・身体不調へのアプローチ～」

認知症の利用者を再度、きめ細かくアセスメントをすることで、身体不調へのケアに取り組んだ結果、BPSDが軽減することができたという報告でした。BPSDについて学んでいく過程で、認知症高齢者からの痛みや身体不調の訴えが少ないことに着目し、仮説を立て、推測される原因に対して一つ一つアプローチいくことで本事例対象者の生活の質が向上していった研究発表でした。

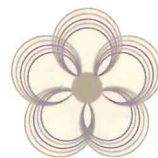


### 第二部記念演奏会

ウクレレ演奏

#### 「ウクレレの世界へ」

「ウクレレの世界へ」のタイトル通り、生駒市出身でウクレレコンテスト世界一に輝いた鈴木智貴氏が奏でる音色の世界に、ひととき魅了され引き込まれました。心とからだがりラックスでき明日への活力が満ちてくるような感動的なウクレレ演奏でした。



## 旭日中 綾章



法人理事

安井 宏一

コロナへの不安が払拭されない寅年の幕開けとなりました。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、無観客という対応もテレビ等を通じて世界中に発信され、勇気と熱気、感動を与えてくれました。

市、県議を通じて、常に眼中にあったのは、人口の動態と高齢化比率です。人口では、県が平成11年に145万人をピークに減少に転じています。

市では、平成12年に11・2万人、高齢化比率15・2%。平成27年には人口11・8万人、高齢化比率は30・2%と大きく変化しています。

少子化と合わせて、高齢者福祉の充実が大きな課題となっています。

県議の時、3つの大きなプロジェクトがありました。その1つは、第2阪奈道路の開通(平成9年)その2つはけいはんな新線の開業(平成18年)3つ目は、平城京に遷却されて1300年を祝う平城遷都1300年祭り(平成22年)です。議長に就任した時期は、遷都祭の前年から開幕にかけてでした。

県内外の会議で会合に出席することが多く、その都度あいさつが求められます。私は失敗をしまいました。

その日は、東アジア各国から来られた方々とのレセプションで通訳の方伴つてのあいさつとなりました。私は奈良県のすがたを紹介しようと思いつばいでした。起承転結を考えながら、あれや、これやと立て続けに話し、ようやく終つたと席に戻った時、隣の方から「通訳の方、目を白黒大汗かいてはったで」と言われハツとしました。すっかり上っていた私は、全く気付くことなく

通訳をして下さった方に大変なご迷惑をかけてしまい、又聞いて下さった各国代表の方々にも聞きとれないあいさつになってしまい、申し訳なく大きな失敗をしまいました。

通訳を通してのあいさつの時は、区切りを付けて話し、通訳が終わったら次へと進めるのが常套であるのに。

そんな時、韓国の大学教授が書かれた文章がありました。

1300年という節目を迎えて、自動車には必ずバックミラーが付いています。後が見えるからこそ前に向かって走ることが出来るのです。大陸の中国、半島の韓国、島の日本との関係についてであります。新アジア時代を開く使命と期待を一身に受けている重要な年であると、1300年祭の意義を強調されました。

議員活動は終えましたが、多くの友人や趣味・本に出会うことが出来、これからも続けてゆきたいと思っています。

福沢諭吉の心訓をひろいました。

- 一、世の中で一番楽しく立派なことは、
- 一 生涯を貫く仕事を持つということです。
- 一、世の中で一番みじめなことは、
- 一 人間として教養のないことです。
- 一、世の中で一番尊いのは、人の為に
- 一 奉仕をして、決して恩にきせないことです。
- 一、世の中で一番美しいことは、
- 一 全てのものに愛情を持つことです。

等々のことばを胸に自分自身にもバックミラーを付けて、明日に向かって進んで行きたいと思っています。



## 旭日小綬章



法人理事  
中本 勝

この度は令和3年秋の叙勲に際し、旭日小授章を頂戴することになり、驚きと共に、大変名誉なこと、有難いやら面映ゆいやら、複雑な思いです。

ましてや、社会福祉法人宝山寺福祉事業団は、ほとんど毎年といってよいぐらい叙勲、褒章の受章者を輩出しておられ、偉大な諸先輩が大勢おられる中で、私の授章がそれらの偉大な諸先輩方の素晴らしい功績に比して甚だ見劣りするのではあるまいかとの思いを禁じることができません。

私は、昭和51年に弁護士登録して以来、45年間、ひたすら基本的人権の擁護と社会正義の実現を目指すことが弁護士としての使命であると自覚し、日々の業務に邁進してきたつもりではありますが、さりとて、いかほどの社会的貢献をなし得たか、いかなる業績を残し得たかと考えると内心忸怩たるものがあります。

幸いにして心身の健康状態はかろうじて維持できていると思っておりますので（これに対しては異論もあり、またその異論を裏付けるような事実もあつて、深く反省しておりますが）、今後ともこれまで同様に本来の業務に従事するとともに、社会福祉法人宝山寺福祉事業団の理事会構成メンバーの一人として恥ずかしくないよう行動していきたいと考えております。  
ありがとうございます。

## 瑞宝単光章



極楽坊あすかこども園  
副主幹保育教諭  
中 美 恵

昨年の秋、思いがけなく「瑞宝単光章」という大きなご褒美をいただきました。

お知らせをお聞きした時は、嬉しさよりも驚きと戸惑いが大きく、不思議な感じでした。その後も実感がないうまま過ぎていましたが、12月に県の伝達式に参加し、荒井知事から賞状を手渡していただいたときに初めて受賞の喜びを感じました。

思い返せば法人でお世話になって35年になります。極楽坊保育園に勤め、たくさんの先生方にご指導いただきました。悩んだ時には相談にものって下さいました。子ども3人を育てながらの仕事で大変なこともありましたが、素敵な先生方との出会いは私の一生の宝物です。園長先生をはじめ沢山の先生方がいつも温かく見守り、支えて下さったおかげでこんなにも永く勤めることができました。また、私の仕事を理解し、応援してくれた家族の支えも大きかったと思います。そして、子ども達の笑顔に囲まれ、優しい言葉に励まされる毎日に改めて幸せを感じています。

今年度「極楽坊保育園」は「極楽坊あすかこども園」に生まれ変わりました。保育の質も社会の変化に伴い多様化していますが、これからも「子どもに寄り添った保育」を心がけ、経験から得た知識や技術を次の世代に伝えていきたいと思っております。今回の受賞の喜びを、感謝と責任として心に刻み、自分の役割を果たせるように努めていきたいと思っております。  
ありがとうございます。

表彰受章

全国レベル表彰受賞

旭日中綬章



法人理事  
安井 宏一

旭日小綬章



法人理事  
中本 勝

瑞宝単光章



極楽坊あすかこども園  
副主幹保育教諭  
中 美恵

法務大臣表彰

いこま乳児院  
院長 辻村 万里子

厚生労働大臣表彰

いこま乳児保育園  
主任保育士 小田 朝美

厚生労働大臣表彰

極楽坊あすかこども園  
主任保育教諭 田中 明美

全国社会福祉協議会会長表彰

いこまこども園  
園長 米田 恵美子

児童発達支援いっぽ  
児童発達支援管理責任者  
長野 智子

あすかの保育園  
主任保育士 川崎 香織

全国乳児福祉協議会会長表彰

いこま乳児院  
事務員 加藤 歩美

いこま乳児院  
保育士 上田 有紀

表彰

令和3年度 法人永年勤続表彰

40年

愛染寮

寮長 末松 保喜

35年

愛染寮

主任保育士 中尾 智子

30年

いこまこども園

園長 米田 恵美子

あすかの保育園

主任保育士 川崎 香織

25年

梅寿荘デイセンター

センター長 伊藤 智宣

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任介護支援専門員 黒川 美穂

介護職員 西 駒貴

全国保育士会永年勤続表彰  
日本保育協会会長表彰

極楽坊あすかこども園  
保育教諭 伊藤 佐智子

日本保育協会会長表彰

いこまこども園  
園長 米田 惠美子

全国老人福祉施設協議会会長表彰

デイセンター寿楽  
センター長 井上 貴至

特養梅寿荘  
介護職員 中井 基行

延 生活相談員 大崎 万季

延 介護支援専門員 津田 光永

延 介護支援専門員 中島 扶美代

延 介護職員 中本 良一

延 事務員 山内 多恵

梅寿荘デイセンター  
事務員 木村 ゆかり

全国老人福祉施設協議会感謝状

あくなみ苑  
介護副主任 辻中 昌美

あくなみ苑  
介護職員 馬渡 清美

あくなみ苑  
介護職員 宮島 美江子

あくなみ苑  
介護職員 岩神 華恵

あくなみ苑  
介護職員 伊藤 智香

特養梅寿荘  
管理栄養士 堀井 倫子

特養梅寿荘  
介護職員 吉村 智子

延 介護職員 岡田 正史

延 介護職員 大平 達也

延 介護職員 宮本 賢二

梅寿荘デイセンター  
介護職員 中村 宗司

20年

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任相談員 中江 智美

介護職員 中井 基行

介護職員 政西 惠美

老人総合福祉施設あくなみ苑

主任相談員 小森 康志

経理主任 清島 理知

梅寿荘デイセンター

事務員 木村 ゆかり

特別養護老人ホーム延寿

生活相談員 大崎 万季

居宅介護支援センター延寿

支援専門員 津田 光永

支援専門員 中島 扶美代

ケアハウス延寿

介護職員 中本 良一

事務員 山内 多恵

あすかの保育園

園長 小林 美香

事務員 辻村 英理

梅寿荘地域包括支援センター

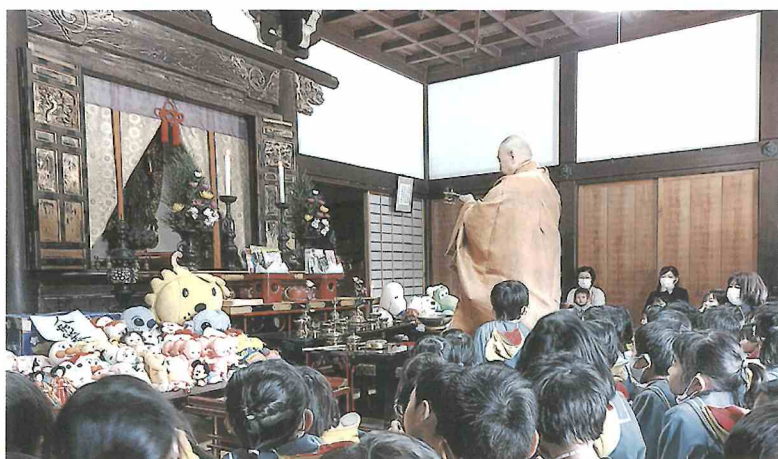
介護支援専門員 諫山 直子

極楽坊あすかこども園

保育教諭 伊藤 佐智子

# 人形 供養

12月1日  
大乘滝寺



12月1日大乘滝寺で人形供養が行われました。

いこまこども園からは、毎年4歳児の黄組さんが参列しています。こども園から山道を抜けて、乳児保育園の裏に出て急な階段を上り切ると滝寺です。2歳児きりん組や3歳児赤組の時にも、七五三詣りをするために登って来た道です。随分しっかりした足取りになりました。

本堂に入るとたくさんのお人形が並べられています。いこまこども園からの人形だけでなく、乳児保育園、乳児院、愛染寮など法人内からたくさんのお人形が供養のため持ち寄られています。大きなぬいぐるみから小さなぬいぐるみ、ひな人形やキューピー人形なども見受けられます。

乳児保育園や乳児院の子どもたちをはじめ、愛染寮など法人の関係の方々も参列されました。辻村泰範理事長の読経が始まり、今まで子どもたちをはじめ、いろいろな人たちの愛玩となり心を癒してきた人形たちに、その役目を終えたことねぎらい供養していただくことも、子どもたちの成長や関係する方々の安寧をお祈りしていただきました。

いこまこども園

副園長 山中 治郎

役員会  
Committee

令和3年度 役員会報告（令和3年10月～12月）

【第3回理事会】令和3年12月15日 桃李館研修室

第1号議案 令和3年度事業計画の進捗状況について報告する件

第2号議案 令和3年度資金収支予算について第一次補正を行う件

第3号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告の件

## ◆編集後記

このひめゆり通信が皆様のお手元に届いている頃は、北京で行われる冬季オリンピック・パラリンピックが開催されていることと思います。厳しい選考会を勝ち抜き、続々と代表選手が決まるのを見ていて胸が高鳴ります。しかしその反面テレビや新聞ではオミクロン株による第6波急拡大のニュースが報じられ高鳴る心に影を落とすようです。オリンピック・パラリンピックが無事開催できますように。そして、選手の皆様、どうか気を付けて、元気で力を十分に発揮して自分の夢を叶えてください。「頑張れ日本!!」 森本